

長田下地域自治 振興会だより 第35号

2019年(令和元年)8月22日発行

長田下地域自治振興会 令和元(2019)年度総会 4月21日(日) 13時30分～ 真徳寺

当日は、天候にも恵まれ多くの人の参加で開幕。今回も昨年と同様に行政や他所からの来賓はなく、会員相互の議論を重視しました。平成30年度の諸報告を承認の後、今年度の行事や予算、役員人事について議決しました。また、「長田下地域自主防災会」についても審議・決定をしましたが、議論の中で、災害時の綿密な連絡体制をさらに検討することが求められました。紙面の都合上、詳細は省略しますが、長時間でのさまざまな議事も参加者の協力により無事終了。参加の皆様ご苦勞でした。これまでの役員さんご苦勞様でした。



これからの役員さん（会長：迫能典、副会長として各区の行政囑託員をはじめ役員の皆様）この1年ご苦勞をおかけしますが、よろしくお願ひいたします。今年は、「生活支援制度」も実施となり、皆さんの協力が求められる年になりそうです。（T.K）

縄文の池修復なる

長田下地域自治振興会が設立され、初代会長である川崎さんが音頭をとり、県共同募金会、ひとは福祉会と共同で縄文の池（平成19年7月完成）を手作りしてきました。その池も、年月とともに舞台や柵の腐食が進み、危ないので撤去しました。今年度の事業として地域づくり部会が中心となり、修復作業にとりかかりました。

設立当初にはあれだけ多くの方々の参加がありましたが、10年の歳月は、この地区にも人口減のすがたがありありと見え、一挙にと言う訳にはいかず、ときにはひとはの若手職員にも助っ人を頼みながらコツコツと仕上げてきました。

池には十文字の木道を設置し、訪ねてくださる方々にビオトープを楽しんでもらおうと計画しています。

これからは、縄文の池のみならずこの地域の環境保持のためには、色んな工夫が必要となります。

振興会を中心に知恵を出し合ひましょう。（T.K）





ふれあいの集い（グラウンドゴルフ大会） 6月23日（日）

天候に恵まれ、当日は38名の参加があり、グラウンドゴルフ同好会のご協力を頂き、休憩をはさんで2ラウンド行いました。

各チームそれぞれ、談笑しながら和気あいあいとコースを回っておられました。健康増進、お互いの親睦も図られたのではと思っています。

1位から6位賞のほか、ホールインワン賞、くじ引き賞、参加賞もあり、皆さん楽しんで頂けたことと思います。

ホールインワンされた方が11人、その内お二人の方が、それぞれホールインワンを3回されたことや、小学生の方の参加も、今年の大きな特徴でした。

次回は、11月を予定しておりますので、是非ご参加ください。 (K.M)



おかげんさん 7月14日（日）

梅雨明けが待たれる中、久しぶりの「おかげんさん」が行われました。去年の豪雨のつめ跡が残る三篠川の護岸を横目に、行列は中長田集会所を出発しました。

約70人の参加者の中には、3世代ファミリーや15人近いちびっこ達が出て、みんなで元気に歩ききることができました。

歩く途中、新たな景色も目にしました。-----「あそこは、どこかね？」 「元西本さん宅の隣に新しく建った『ひとは長屋』ですよ。」 -----という会話も。集会所に戻る頃、小雨が落ちてきましたが、食事をいただきながら、花火も楽しむことができました。

準備して下さった役員・関係者の方々には、大変お世話になりました。提灯の灯りを見ていると、当たり前で暮らせていることに感謝し、これからも安心して暮らせますようにという気持ちになりました。 (T.K)



「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える②

今回は、長田下地域に伝わる伝説（言い伝え、昔話）の1つについて、まとめてみることにしました。題して「蛭神さん」（ひるがみさん）のお話です。

皆さんは、長田の^{おんじ}隠地の地名、「向田淵」（「むこうたぶち」と読む）がどこか、ご存知でしょうか。それは、長田7区上の広い水田地帯、平野部を向田淵と呼ぶそうです。



昔むかし、この向田淵の水田は、名前どおり^{しつてん}湿田（ふけだ）が多く、蛭（長田の方言では「ひいる」という）がたくさんいました。だが、不思議なことに、ここの^{ひいる}蛭は、人に吸いつかなかったそうです。田植え機がなかった時に、^{はだし}裸足で田んぼに入って田植えをした人は、一度や二度は蛭に吸われ、痛がゆくて、とてもつらい体験をされたと思います。だが、この向田淵では、蛭が人間に吸いついても意地悪をしなかったそうです。そのわけは、この地域の人たちが神様に祈願して、蛭が人に害を与えないようお願いしたからです。人々はそのことに感謝し、「蛭神さん」として祭ったそうです。



また、向田淵の^{こうあんじ}広庵寺の近くの谷川には、蛭が一匹もいない所があるそうです。

その昔、この地域のお婆さんの夢枕に、地蔵さんが現れて、「わしは今、お前さんの屋敷の裏の畑の中に埋まっている。わしを掘り出して、きちんと祭ってくれたら、この一帯の蛭をなくしてやる」とお告げがあったので、さっそく掘り出して、ていねいに祭ると、それ以後、蛭は一匹もいなくなったそうです。この谷を「蛭なし谷」と呼ぶようになったそうです。今も、「蛭なし谷」は、向田淵のどこかにあるのでしょうかね。



その蛭神さんや地蔵さんは、今の^{ほうおくかんのんどう}棒奥観音堂（田口利昭さん宅の右上にある）に祭ってあったそうですが、長い年月の間に、金属の物は、戦時中に軍部に供出したり、大事な物は見ず知らずの人が持ち出して、昔の観音様や半鐘などはなくなってしまったそうです。今は、増阪さんのご親戚の彫刻家が彫られた木彫りの仏像が一体、祭られているだけです。この観音堂は、内藤氏の菩提寺である広庵寺が衰えたので、江戸時代に地域の有志が、現在の地にお堂を建立しました。だが、長い年月が過ぎ、荒れ果てたた



めに、昭和時代になって、^{かやぶ}萱葺きから^{かわらぶ}瓦葺きに再建し、さらに、平成8年に屋根などを修復されました。今でも、毎年4月の15日には住民が集い、真徳寺様をお迎えして、読経や法話をしてもらって、お茶会をされるそうです。現在は質素な会になっていますが、ひと昔前は、きっとお酒やご馳走を持ち寄り、盛大に行事がなされていたらと想像しました。

地元の人のお話では、「この観音様のご利益か、長い年月、この地域では、火災が一件も発生していない」とのことでした。神仏のお蔭でしょうか。蛭神さんを祭った観音堂が、防火の役目もされておられるように感じました。（F.T）

長田下地域人物伝⑳

～重村 芳男さん（4区）～

今回は、4区の重村芳男さんを紹介します。

重村さんは、東広島市高屋町の杉本家の五男として、昭和21年4月23日に生まれました。今年で73歳になります。7人兄弟の末っ子だったそうです。

中学時代は、陸上部の長距離選手で、中国少年駅伝大会にも出場したそうです。高校時代は、先生に長距離の脚力を見込まれ、クロスカントリースキーの選手になって頑張ったそうです。（この地域では、このスキーは誰もやったことがないのでと思います。）

高校卒業後、日本電信電話公社（現在のNTT）へ就職。それから、約50年間勤めて、定年を迎えた時、「自分でも、こんなに長く、よく勤めた。」と思ったそうです。

24歳の時、重村里美さんと結婚され、向原町長田に来られました。そして、その頃、発足した明神クラブには最初から入っていたそうです。

また、その後、発足した地域振興会へも最初から参加し活動してきたそうです。

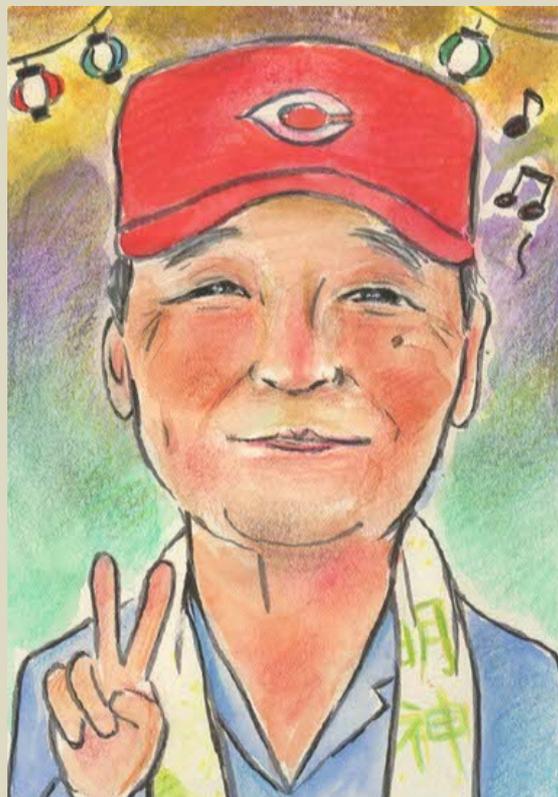
明神クラブでは、地域を盛り上げようと始めた盆踊りや田舎芝居にずっと熱心に関わってこられました。盆踊りは、準備から後片付けまで一度も休むことなく30年以上も続けられています。私も一緒にやっていますがなかなかできる事ではありません。感謝しています。

田舎芝居では、「芝居をやってみようや。」というきっかけを作ったのが重村さんでした。芝居が好きで、一人で清水劇場へよく見に行っていたそうです。最初の座長も、重村さんがなり、明神一座、第1回目の田舎芝居「人情時代劇 験の母」を成功させたのです。初めての事で心配や不安は大変なものだったと思います。

地域振興会でも、定年後は「地域づくり」の部長を引き受けられ、みんなのリーダーとして頑張ってこられました。「田舎芝居にしても、地域づくりの行事にしても、みんなによく協力してもらったおかげです。本当にありがとうございました。」と言っておられました。

最後に、奥様が「アルコールを減らして、タバコをやめて、健康に気を付けて欲しい。」と言っておられました。

これからも、奥様の言われたように健康に気を付けられ、盆踊りや地域づくり、よろしく願います。（Y.H）



「広報委員会より」今年も昨年と同じメンバーが担当しています。少しでも地域の情報がお届けできれば幸いです。（委員：松田清、谷林文男、寺尾文尚、火上保雄、児玉尊子、金岡俊信、岩見達也）

発行： 長田下地域自治振興会 担当： 広報委員会、企画調整部